

製品名: JNK2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21038**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:48kD;Observed MW:46,54kD

抗原情報

遺伝子名	MAPK9 MAPK9;JNK2;PRKM9;SAPK1A;Mitogen-activated protein kinase 9;MAP kinase 9;MAPK
別名	9;JNK-55;Stress-activated protein kinase 1a;SAPK1a;Stress-activated protein kinase JNK2;c-Jun N-terminal kinase 2
遺伝子 ID	5601.0
SwissProt ID	P45984
免疫原	ヒト JNK2 の合成ペプチド

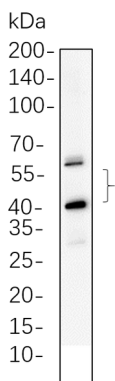
背景

細胞局在: 細胞質。核。核内で POU5F1 と共局在する。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAP キナーゼファミリーのメンバーである。MAP キナーゼは、複数の生化学的シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達などの幅広い細胞プロセスに関与している。このキナーゼは特定の転写因子を標的とし、さまざまな細胞刺激にตอบสนองして遺伝子発現前初期を仲介する。最も近縁関係にあるのは MAPK8 で、どちらも紫外線誘導性アポトーシスに関与し、シトクロム c を介した細胞死経路に関連していると考えられている。この遺伝子と MAPK8 は、c-Jun N 末端キナーゼとしても知られている。このキナーゼは腫瘍抑制因子 p53 のユビキチン化を阻害し、ストレスを受けていない細胞における p53 の安定性を高める。この遺伝子のマウスにおける対応遺伝子の研究では、T 細胞分化において重要な役割を担っていることが示唆されている。いくつかの代替

研究分野

-

画像データ



C6 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜を JNK2 ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。